

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

通信教育部を卒業して感じたこと ～“基本”の大切さ～

OB MESSAGE

通信教育部社会福祉学科卒業生 横田 晋一

1. はじめに

私が通信教育部で学ぶことになったきっかけは、非常にシンプルでした。「福祉分野に興味を持ち、転職をした私は、福祉の知識・技術に関してはゼロだから、働きながら福祉の知識・技術を体系的に学べる通信教育部に入学し、スキル・キャリアアップを目指そう」と考えたのです。

入学から卒業までの2年間、色々なことがありましたが、周囲の方々のサポートをいただき、福祉に関する幅広く、深い知識・技術を身につけ、また社会福祉士資格を取得することができました。

以下では、特にレポート作成と実習という2点に焦点を絞り、それらに取り組む際のポイントを書き示したいと思います。

しかし、すでに皆さんがご存知で実践されていることが多く含まれており、また必ずしも全ての皆さんに当てはまることではないかもしれませんが、最後までお読みいただき、皆さんの日々の学びや実践等の一助となるものがありましたら幸いです。

2. レポート作成について

第一に、各科目の各課題について、何を記述しなければならないのか、どのような内容のレポートが求められているのかを理解し、しっかりと頭に入れておくことです。

次に、各科目の指定教科書の中で、各課題に関連する部分を中心に教科書を読み進め、字数制限や表現を必要以上に気にせず、とにかくレポート

を書き進め、ある程度形にすることです。

さらに、文献・電子メディア情報を可能な限り活用し、レポートに肉付けするとともに、各課題に対する自分の考えを記述した上で、字数制限や表現、文章構成に気をつけてレポートをブラッシュアップし、レポートを仕上げることです。

最後に、何度かレポートを読み返し校正を行い、完成したレポートはできるだけ早く、自信を持って提出することです。

レポートをいつまでにどれくらい提出するかは、「学習の手引き」に記載されている「社会福祉士取得希望者の学習計画例」が大いに参考になると思います。社会福祉士を取得するか否かに関わらず、自らを律するためにも非常に良い計画例であると思います。

また、可能な限りスクーリングに参加し、生の講義を聞くことによって、レポートを書く際の情報が数多く得られ、また通信教育の一番の財産と言っても過言ではない数多くの学友の皆さんとも知り合うことができるということも付け加えておきます。

3. 実習について

実習については、高齢者分野・障害者分野・児童分野等、様々な分野がありますが、どの分野にも共通するようなポイントであろうと思っています。

第一に、自分がどの分野に興味・関心があり、将来その分野で何をしていきたいのか、実習ではどのような学びを得たいのか、何故その実習先を選択したのかを、その理由に至るまで考えることです。

次に、「実習の手引き」を参考にし、自分が実習で学びたいことをしっかり念頭に置き、計画書を作成することです。この計画書は、通信教育部・実習先と可能な限りやりとりを行い、自分が学びたいと思っているこ

とを出来るだけ学べるようにすることが重要です。

さらに、利用者の方々とのコミュニケーションを積極的に図るとともに、大学の実習指導教員や実習先の指導者の方、他の職員の方々ともより良くコミュニケーションを取り、実習がスムーズかつ有意義なものになるように努力することです。いつもと違う環境で緊張し、身体的・精神的に疲弊するかもしれませんが、物怖じはすることなく実習に向かっていきます。

最後に、実習記録や課題ノート、実習先で出された課題について、あらゆるものを活用しながら積極的に取り組み、当初の計画書とは若干異なる実習プログラムになるうとも、自分が学びたいことを常に念頭に置きながら、その実習プログラムの中で学びを得られるように努力し、必ずプログラムが終了したら振り返りを行い、今後の課題を見出しながら、より深みのある学びを得られるようにすることです。

4. おわりに

近道や早道で得た知識・技術は、吸収は早いかもしれませんが、忘れる早さもあっという間であることが非常に多く、結局は地道な努力が学びをより幅広く、深いものにし、より定着した知識・技術とする一番のポイントであり、学びの“基本”だと考えています。

レポート・スクーリング・科目修了試験・実習・卒業試験、社会福祉士国家試験…大切な“基本”は、どれも同様だと思います。何をしなければいけないかを考える、分からないことがあったら聞いたり調べたりする、明るく、元気に、前向きに、はきはきと積極的に取り組む、やりっぱなしにしないできちんと振り返りをして今後活かしていく、自分の行ったことに自信と責任を持つ…こうしたことが、卒業後の学びにも大きく影響することと思います。

また、卒業後強く思うことは、福祉とは“人対人”の分野であり、日常のコミュニケーションをなおざりにせず磨いていくことが大切であるということです。福祉の専門的知識・技術は必要ではあるが、それらは十分なものではないと思うのです。

様々な福祉的課題を抱えてはいるが、その前に一人の人間である…専門的知識・技術をもたないと構築できない関係や取れないコミュニケーションは、本来の人間関係とは違ったものだと感じています。専門的知識・技術だけをただ単に振り回すのではなく、他者との間に“心と心のつながり”を構築するためには、専門的知識・技術から離れた日常のコミュニケーションを磨くことが大切だと考えています。そしてそれは、人を一人の人間として尊重することであり、福祉の“基本”であると思えてならないのです。

最後に、周囲の方々の数多くのサポートに感謝しながら、今回のメッセージを終えたいと思います。在学生の皆さん、常に学び、常に考え、常に行動し、常に自分を振り返り、常に自分を作り直して、一歩一歩ともに前へ進んでいきましょう！

スクーリング・アンケートより(1)

受講された方の感想をごく一部のみですが、紹介させていただきます。

●レポート学習について

タイトなスケジュールの締切に追われ、必死に時間と戦ってレポートを作成している。果たしてこの方法で身につけているのか疑問に思うことがある。知識として身につけ、かつ社福士の国家試験対策にもなるように、こうしてレポートを作る意味があると信じて頑張っています。

(コメント) この悩みは通信教育部での社会人の学習にはつきものだと思います。じっくり勉強したいのに、時間がない！ 締切でリミットを決めて提出するのよし、時間がかかるがじっくりやるのよし！ 各自のスタイルに合わせて学習を進めれば、そして時々ふりかえって復習や自省を加えていけば、きっと知識が身になり肉になっていくと思います。

●心理学実験Ⅱ

- ・鏡映描写の負の転移が起こると物事がなかなか受け入れられないことを実感した。一度頭の中の経験をリセットすることで、正の転移に移行したが、実験回数があと1, 2回増えたなら両側性転移がもう少しハッキリ見られたかもしれないと考えさせられた。
- ・概念というものは、あてはまらない特性群を無視することで、より明確に理解できるのだと改めて分かった。

●精神保健福祉援助演習

- ・実際のPSWの現場では、広い視点と、狭い視点の両方を併せ持つことが大切だと感じたが、互いに別の人間である以上、その人の全てを理解することはできないということも感じた。今後、専門家として何ができるのか考え続けていくことになるだろう。
- ・先生のユーモアを交えながらの授業はとても楽しく、有意義なものとなりました。主にディスカッション方式で他の方の意見を聞くことにより自分自身の価値観を改めて見つめ直すよい機会となりました。
- ・自分がなぜ精神保健福祉士になりたいのか、また精神保健福祉士とは？という問いかけに振り返りを行うことができた。国家試験の実際の話や実習前の心構えも勉強になりました。